

持続可能な水産物調達
「オリンピック・パラリン
ピック2020年東京大会」に向
けて

山内 愛子
海洋水産グループ
WWF ジャパン

17, Aug 2016

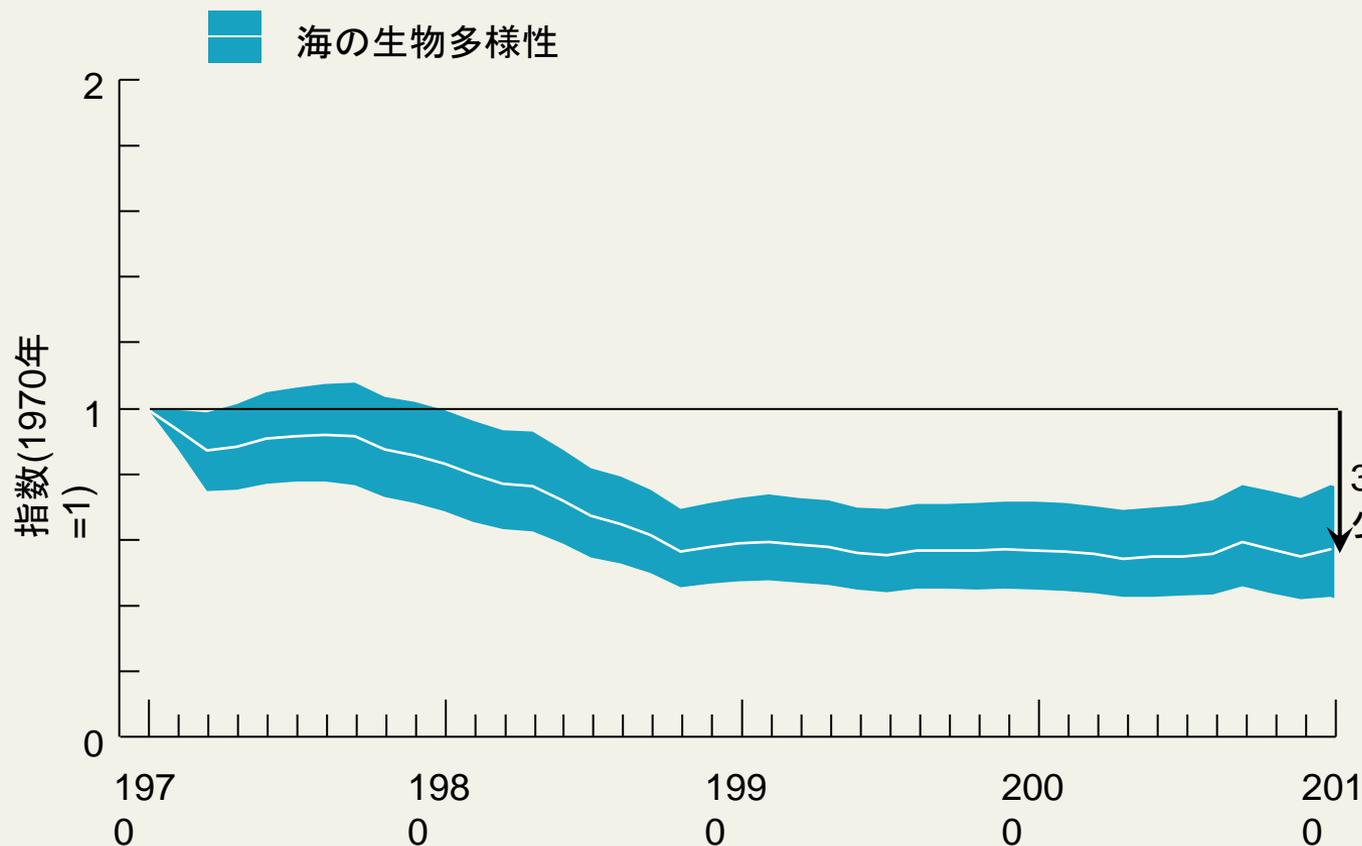




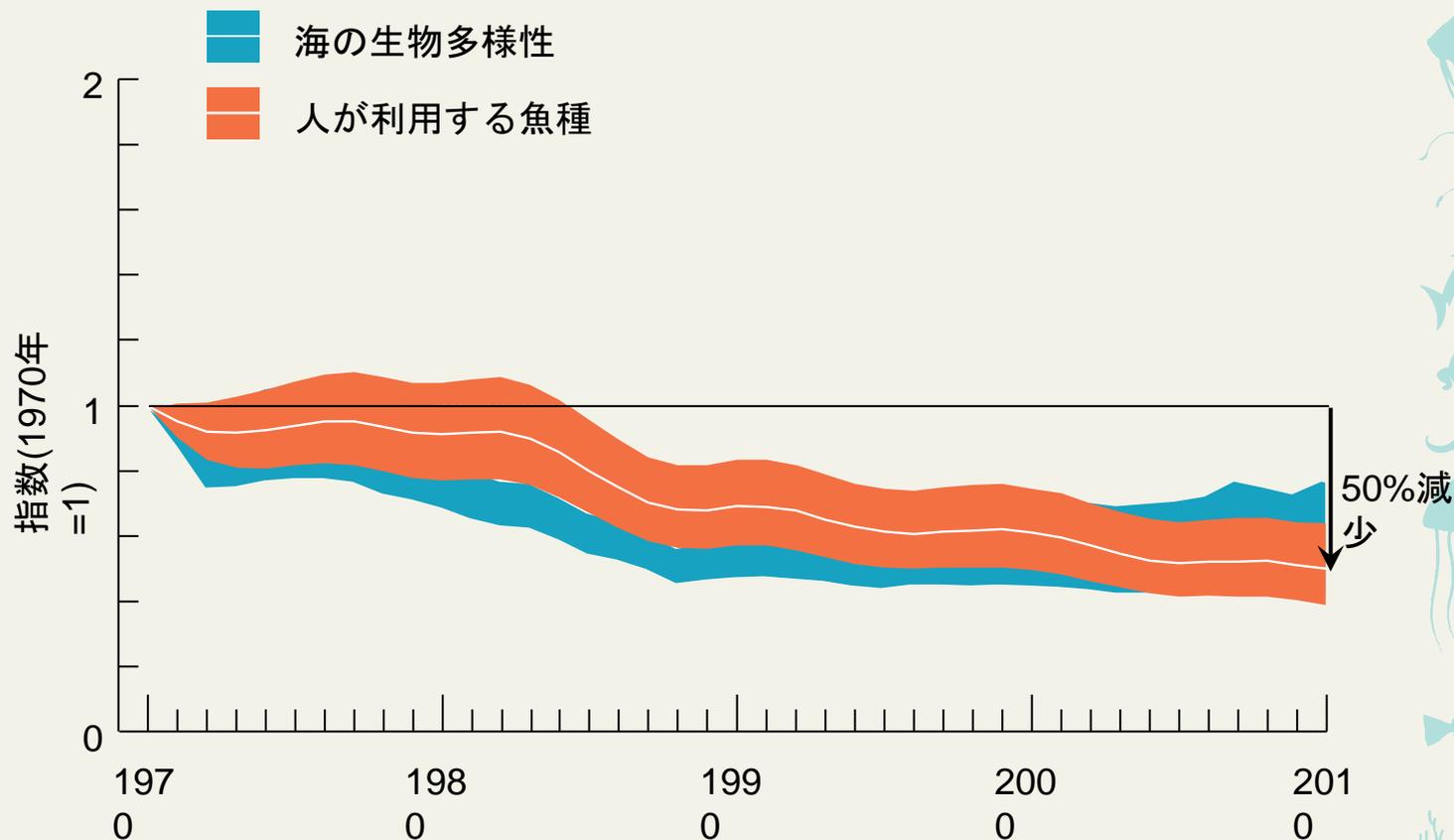
現在の海洋環境



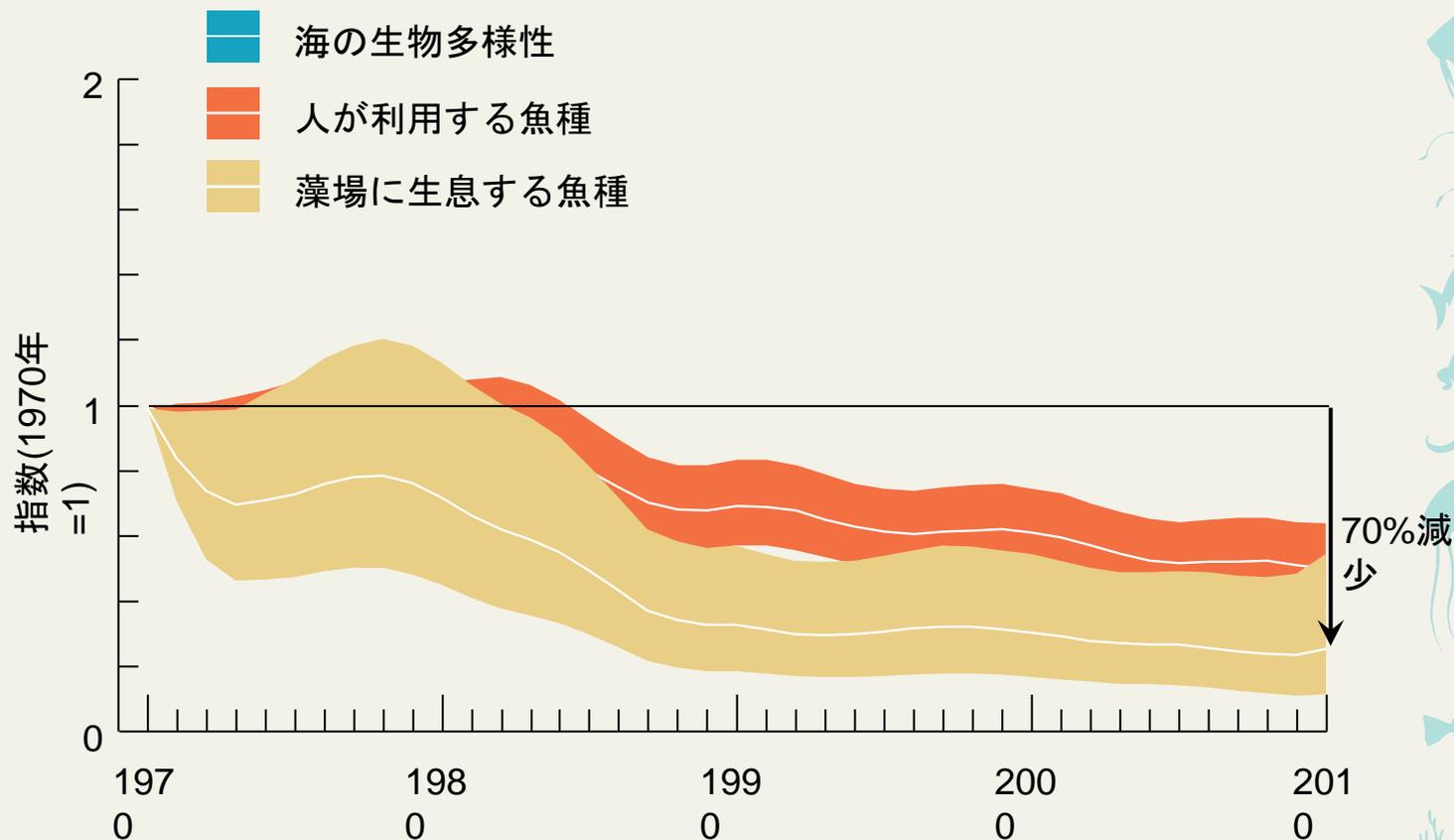
世界の海の生物多様性 生きている地球指数(海洋版)



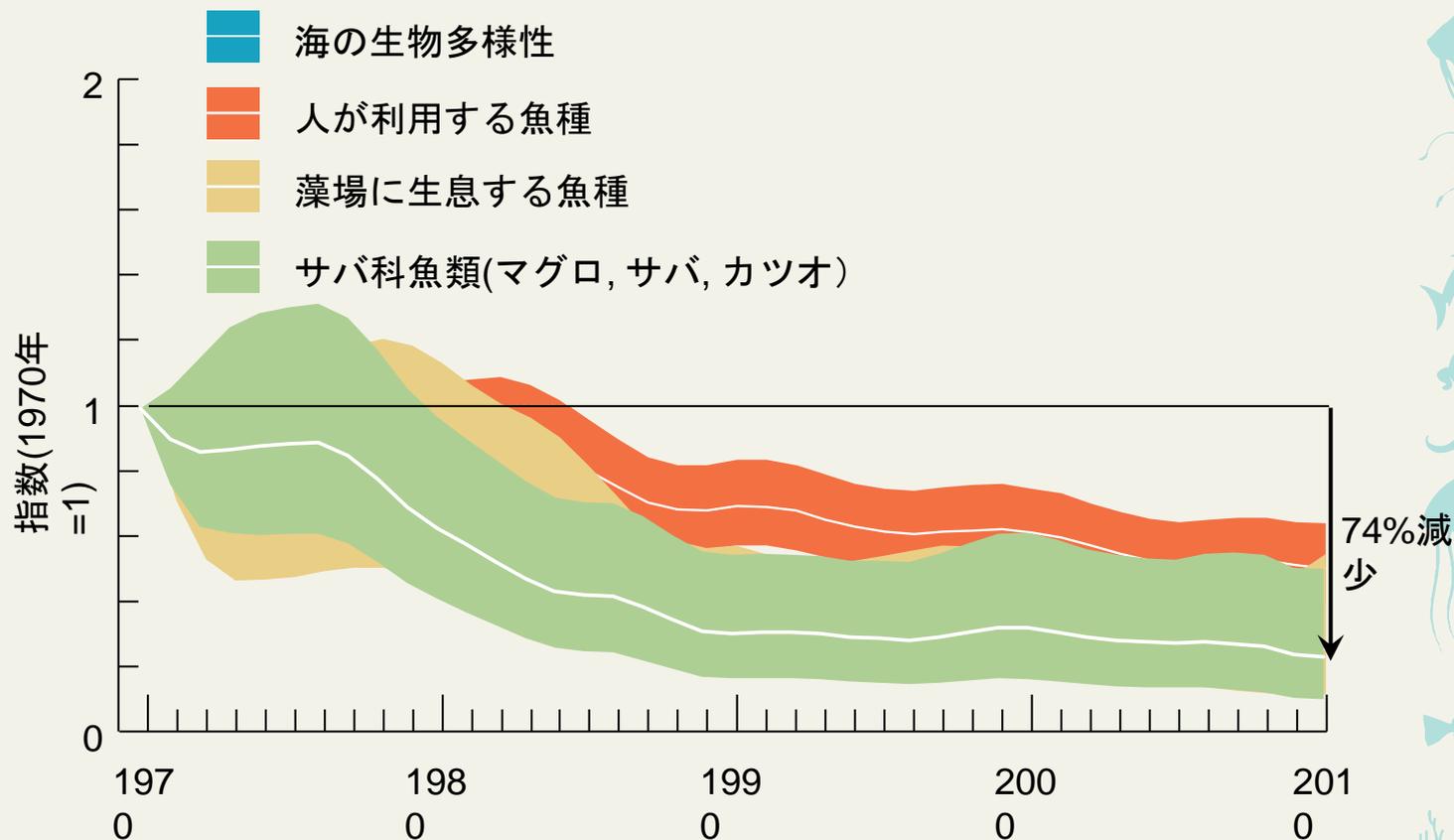
世界の海の生物多様性 生きている地球指数(海洋版)



世界の海の生物多様性 生きている地球指数(海洋版)

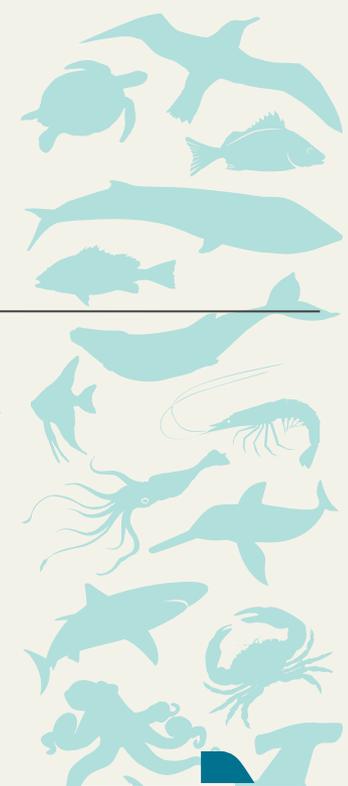


世界の海の生物多様性 生きている地球指数(海洋版)





世界の海の生物多様性 数字でみる海に迫る危機



1人あたりの魚消費量は1960年代から倍増 (FAO 2014)



の魚資源は過剰利用 (FAO 2014)



1/3
以上のオイル・ガスは海洋油田由来 (Maribus, 2014)



80%

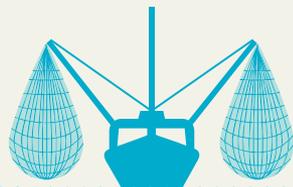
のツーリズムは海を利用 (Honey & Krantz, 2007)



2050年の世界人口は960億人 (FAO 2014)



船舶交通量は過去20年で4倍に増加 (Tournadre, 2014)



1.7-4.2兆円
過剰漁獲を招く補助金支出額 (Sumaila et al. 2010)



3-5倍

マングローブ林の消失速度は、世界の森林の消失速度より3-5倍速い (UNEP 2014)



中型旅客船は

1週間の航行で
80万トンの下水
380万トンの雑排水
500Lの有害廃棄物
95000Lの油濁水
8トンのゴミを排出 (Copeland, 2008)



サンゴ礁の半分と藻場の1/3は消失 (Hoegh-Guldberg et al., 2015)



3-5°C
2100年までの海水温上昇 (Hoegh-Guldberg et al., 2007; IPCC, 2013)



800万

プラスチックゴミの年間投棄量

15ヶ/Mの粗大ゴミ
2025年には倍増 (Jambeck et al., 2015)



2020年東京大会が取り組むべき課題



水産物の調達を通じて東京大会が取り組むべき課題

- 1) 消費の現場から適切な資源管理の枠組み導入と順守状況向上を促す
- 2) 海洋生態系の保全と世界の食糧安全保障問題、沿岸地域の暮らしの改善に貢献できるモデルを示す
- 3) 水産物消費大国である日本が、持続可能な水産物消費社会の模範となり、世界の持続可能な水産資源利用をリードする

水産物調達で想定されるリスク

- ・ 「合法性」のみの確認では、生産活動による生物多様性や地域社会への悪影響を与えている製品が排除できない
例) 枯渇資源の利用、希少生物の混獲、地域利害関係者間の紛争など
- ・ サプライヤーの自己宣言などに基づく証明が、十分に資源枯渇などのリスクを緩和できていない
- ・ 各種書類などが、実際に調達した水産物に紐づけられていない
- ・ 大会特有のリスクとして、国際的な利害関係者が、調達された水産物の追跡調査などを行い、調達コードへの不適合を指摘されるケースも想定される

合法であればサステナブル?? 陸の事例から考える



写真: 植林地予定地で「保護」されているラミンの立木、「保護(=合法)」と解釈?



①伐採事業者が政府に許可を得て伐採



②住民が反対（妨害）する



④社会紛争



③事業者が警察を呼ぶ

陸域での社会的課題



WWFが推奨する水産物の具体的な調達コード

<確認事項>

- ✓ 漁獲対象および混獲生物の資源状況への影響
 - ✓ 生産活動に起因する海洋環境への影響
 - ✓ 中長期的視野に基づいた、適切な資源管理体制、漁業管理体制の有無
 - ✓ 先住民族、地域社会、労働者などに関わる社会紛争の有無
 - ✓ 製品から漁獲、または養殖生産現場にまで追跡可能なトレーサビリティの有無
-

推奨する確認方法

- ✓ 調達方針の策定と適合する水産物供給をサプライヤーに要求すること
 - ⇒ 違法、無規制、無報告（IUU）漁業由来の製品の排除、保護価値の高い海洋の保全、労働環境などの社会面での配慮にコミットする
- ✓ 透明性あるトレーサビリティの確立
 - ⇒ 適切な記録によって生産現場まで追跡可能
- ✓ 方針への合致を確認する手段の適切な採用
 - ⇒ MSC, ASCといった認証製品を優先的に調達することで、調達時の確認を簡易にする。また方針不適合のリスクが小さい

推奨する確認方法

- ✓ 認証製品の調達が困難な場合の手段については、透明性と客観性が求められる
⇒進捗確認が可能で、多様な利害関係者と協働で実施されている漁業・養殖業の管理及び改善計画の有無
- ✓ 認証製品、改善計画などを実施する製品調達が困難な場合の手段については、以下のリスクアセスメントを実施する
⇒①資源状況、②海洋生物多様性への影響、③社会的影響についてアセスを行い、その結果を参考としてリスクが低いものを取り扱う
- ✓ 具体的方法の検討・導入については、国内外の供給元、NGO、民間企業など多様な関係者が参加可能な、透明性あるプロセスを確保する

海の生物多様性保全のための「手段」としての認証制度

科学的な根拠に基づいて、海洋生態系と資源を適切に管理する「しくみ」と生産から消費まで全ての関係者共有できる「ツール」が必要。

- 
- ・ 定量的・定性的に評価できる基準づくり
 - ・ 船から食卓までの透明性の確保
 - ・ グローバルに利用できる「ものさし」



WWF は、
「人と自然が調和して生きられる未
来」
を目指して活動する
グローバルな環境保全団体です。

+100

5大陸、100カ国
以上で活動

1961

設立1961年

+5,000

世界で5,000人以上
のスタッフが従事

+5,000,000

世界で500万人以上
のサポーターが支持

+10,000

世界で1万社以上の
企業・団体が支援

